

【国語】① この課題は作文用紙または、ノートにまとめましょう。

◆これまで、4年生で身につけた力を使って、「10年後のわたしへ」というタイトルで作文を書きましょう。身につけた力とは、作文のまとめ方や、段落の使い方などです。くわしくは次の条件に書きますので、条件をクリアできるような作文になるようがんばりましょう。

条件①：尾括型^{びかつがた}で書きましょう。尾括型^{びかつがた}とは自分の伝えたいことを段落の「おわり」に書くことです。

条件②：段落の「中」には、自分が今までに実際に経験^{じっさい けいけん}したことをもとにして書くようにしましょう。
その経験は、学校以外で経験したことでOKです。

条件③：400字より多く書きましょう。(作文用紙1枚以上)作文用紙がある人は、作文用紙に書いてもよいです。無い人はノートでもOKです。

条件④：文末^{けいたい}を敬体^{じょうたい}か常体^{じょうたい}でそろえて書きましょう。

(敬体：文章の終わりが…です、ます、で終わる。)〈⇒僕は男の子です。〉

(常体：文章の終わりが…だ、である、で終わる。)〈⇒僕は男の子だ。〉

条件⑤ 自分自身で推敲^{すいこう}まで終わらせていること。推敲^{すいこう}とは、書いた後に自分で読み直し、文字や言葉の間違いを直したり、表現をよりよくしたりすることです。直している途中ではなく、仕上げの文章にしてください、ということです。

<例文>

(はじめ) 今から十年後の世の中は二〇四〇年、世界はきっと今より環境がよくなり、地球温暖化の問題もだんだん良くなってきていると思います。二〇四〇年の自分は二十才。二十才のぼくは、きっと映画俳優になるためにがんばっていると思います。

(中) なぜ映画俳優になるためにがんばっているかという、ぼくはもともと人を喜ばせることが好きで、将来そんな職業につきたいと考えていました。四年生の学習発表会で「浦島太郎」の劇をしたときに、見ている人がすごく喜んでくれたことが、今でも忘れない思い出になっています。お家に帰ってからお父さんが「～の演技はすごく良かったね。」とほめてくれたのもすごくうれしかったです。(⇒ _____ の部分が条件②の実体験)

(おわり) 十年後の私へ。大きな夢をかなえるために、どんな難しいことがあっても諦めないで下さい。今はまだ国語の音読があまり上手ではないけれど、毎日練習を忘れないで下さい。夢に近づくように今のぼくもがんばります。(⇒ _____ の部分が条件①の自分の意見)

<<アドバイス>>

先に10年後の自分へ…と始めると、手紙調の文となり、文章が短くなりがちなので、尾括型を条件にしました。はじめの書き出しで、「10年後は今と変わってこんな時代になっているだろう…」など、自分なりに考えたことを取り入れると自分らしい文章になると思います。また、10年後の未来は何も決まっていますが、今の時代からつなげて想像して書くことが大事です。自分の将来の夢などでなくても良いので、10年後の自分に向けて自由に書いてみて下さい。

【国語】② この課題は、別のノートにまとめても OK です。

- ◆教科書単元「初雪が降る日」を読んで、次の課題に取り組みましょう。
- ◆教科書が手元に無い人は、動画サイト Youtube (初雪の降る日_音読) で本文を読むことができます。
<https://www.youtube.com/watch?v=67FyzBkxRU0>

課題 1： 本文を読んで、疑問文をできるだけつくりましょう。答えがすぐにわかる疑問文は
つくらないように気をつけましょう。がんばって 10 個以上を目指そう！
(例：女の子はなぜ 1 本道にしゃがんでいたのだろう?)

課題 2：自分のつくった疑問に、自分なりの考えで答えてみましょう。
(例：きっと～だからだろう。)

課題 3：どこから不思議の世界に入ったのだろうか、また、その出口はどこでしょう。
ファンタジーの入り口と、出口の文章はどんな場面か書きましょう。

入り口…

出 口…

課題 4：全部の課題が終わったら、感想を書きましょう。